

JAきたみらい

あひま サタダ

2015



vol.155

12



はいっポーズ!

《訓子府地区・北栄》

森 梓さんとひなたちゃん・みのりちゃん・ほまれちゃん
(紹介は2ページです)

特集

- 第28回JA北海道大会
- 平成27年産
農畜産物を振り返って



冬に煌めく イルミネーション

季節の薫り



日の入りがぐっと早く感じられる12月上旬、冬の夜空に星が輝き、雪上にはイルミネーションが煌めく。

100年以上の歴史を持つおんねゆ温泉郷では無加川河畔の温泉ゆめ広場や温根湯温泉市街地を会場に、約1万球の電飾が湯けむりを幻想的に照らす。

訪れた旅人を温かく出迎えるのは、イルミネーションに彩られた三角形のオブジェ。これは開拓当時の温泉入浴施設「拝み小屋」（湯壺の左右から板を立て掛けた三角形で両手を合わせて拝む時の形状に似ていることから）をイメージしたもの。

迫る年の瀬、新年を迎える準備で慌ただしいこの時期、光の装飾が見た人の心を温かく包み込む。

（高田 陽介）

【写真は12月1日に温根湯温泉ゆめ広場で撮影。午後5時から10時まで点灯し、期間は翌年3月上旬までです。1月3日には「ニューイヤー花火」と題し温根湯温泉神社付近で打ち上げ花火が行われ、また1月30日から毎週土曜に5週連続で「雪花火」が開催されます。】

もくじ CONTENTS

○おひさまサラダクッキング 「タルト・オ・ボンム」 「根菜と豆入りの ミネストローネ」	20 16
○JAからのお知らせ	16
○ほのぼの広場 ・きたみらいのホープさん ・なかよし夫婦 ・ブリティーウーマン ・大きくなったら	14
○地域だより	12
○表紙紹介 「思いやりを持った 優しい人に」	2
○季節の薫り	2
特集① 第28回JA北海道大会	4
特集② 平成27年産 農畜産物を振り返って	5

表紙紹介

思いやりを持った優しい人に

11月29日、森家を訪ねるとお母さんと一緒に3姉妹が元気よく出迎えてくれました。

長女のひなたちゃんは絵を描いたり工作するのが好きで、自分の周りを作品でいっぱいにします。幼稚園ではおままごとでブロックで遊んでいると照れながら教えてくれました。

次女のみりちゃんはお姉ちゃんのすることをよくマネしているそうです。2人ともリュックが大好きで外にお出かけする時はずっと背負っているんだとか。

三女のほまれちゃんは、いつもこ機嫌で、夜もしっかりと寝るそうです。2人のお姉ちゃんたちにかわいがられてとても嬉しそうでした。

お父さんとお母さんは「これから先、3人とも自立できるように育ててほしい。そして、いろんな人とも関わると思うので、思いやりを持った優しい人になってほしい」と話してくれました。

（神田 貴章）



【ご家族紹介】
前列左から～おとうさんの清志さん(41)、長女のひなたちゃん(5)、三女のほまれちゃん(3カ月)、おかあさんの梓さん(36)、次女のみりちゃん(2)
後列左から～おばあちゃんの町子さん(64)、おじいちゃんの清春さん(67)、ひいおばあちゃんのナヲ子さん(87)
森さんは秋小麦、玉葱など約23品を作付けしています。

特集

第28回 J A 北海道大会

力強い農業 豊かな魅力ある農村を目指し

J Aグループ北海道は11月11日、札幌市で第28回 J A北海道大会を開催しました。大会は3年に1回開かれ、会場となった札幌コンベンションセンターには、全道から J A・連合会・中央会の役員をはじめ、青年組織・女性組織の代表など約2,300人が参加し、 J Aきたみらいからも西川組合長をはじめ、28人の役員が出席しました。

メインテーマの「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現のため、基本目標の達成に向けて取り組むことを決議。また、環太平洋連携協定(TPP)から北海道農業を守るための特別決議を採択しました。

大会には来賓に高橋はるみ知事、北海道経済連合会の大内全会長、北海道消費者協会の橋本智子会長などが出席しました。

大会実行委員長を務めた J A道中央会の飛田稔章会長は「今大会にある『力強い農業』とは、北海道の基幹産業である農業が所得を確保することで持続可能な産業となること。『豊かな魅力ある農村』とは農村に暮らす人々が消費者などとなつながらもって心の豊かさ誇りを実感できる魅力ある農村となることだ。 J Aグループは TPP や農協改革により、一大転換期を迎えている。今大会を通じて、今後の取り組みを決め、

農業と農業協同組合の基盤をさらに発展させ、後世に継承するよう一丸となって頑張っていきたい」と挨拶を述べました。

高橋知事は「北海道は重要5品目すべてを抱え、農業関係者や道民の多くが不安や懸念を抱いている。 J Aとの連携を深め、生産性や収益性の高い『チャレンジング農業』を推進し、今後とも、食料供給基地として役割を担っていきけるよう全力で取り組んでいく」と挨拶されました。

本大会の議長は J A ようていの八田米造組合長が務めました。

議事では、北海道550万人と共に創る『力強い農業』、『豊かな魅力



▲決議を拍手で採択する当 J A の役員

ある農村』の実現、基本目標を実現するための『各組織等の取り組み』が上程され、大会決議と「TPP から北海道農業・農村及び国民の命と暮らしを守る特別決議」が満場一致で採択されました。

大会の開会前には広報活動プレゼンテーション、TPPに関する説明会、パネルディスカッションが行われました。北海道経済連合会の近藤龍夫名誉会長らがパネリストとして参加。近藤氏は「多くの国が国土保全やエネルギー確保と並んで食を重視しているのに対し、戦後日本では農業の重要性が忘れられている」と指摘。国民の理解が重要だとし、「政治や教育などの場を活用すべきだ」と述べました。



▲開会挨拶を述べる飛田会長

特集

平成27年産

農畜産物を振り返って

平成27年も残り20日余りとなりました。春の植付けは好天に恵まれ、大型台風に見舞われましたが、収穫も概ね順調に進んだ天候であったことと思えます。

一年を振り返り、主要農産物について各生産組織の代表者より総括していただきます。

水稲 作況指数 111の豊作

播種作業は順調に進み、高温・多照により出芽は良好で、苗立枯病の

発生も少なく、充実した苗質となつたことから、移植作業もやや早まり、5月下旬の好天により良好な活着となりました。

6月に入り、日照・低温から、分げつの発生は緩慢となりましたが、



全量1等米 6年連続の豊作

きたみらいもち米振興会
会長 沼崎 栄治

本年を振り返り、春の育苗期から耕起・移植作業等、天候に恵まれ順調に進みましたが、6月の低温・日照不足により生育は遅れ、莖数は不足気味でした。その後7月から8月上旬まで高温で経過し生育は平年並みまで回復したものの8月17日からの低温により登熟は緩慢で圃場間のバラつきもあり経過したことから、収穫適期幅は長期間に渡るものと予測されました。

収穫は、例年よりも1週間遅い9月25日から開始し、10月2・8日の暴風雨による穂脱、倒伏の被害もあり刈り取りには大変苦労しましたが、10月15日に農作業事故もなく無事終了し、北海道の作況指数は111、当 J A の10% 当たり平均収量は10.3俵、正品反収8.7俵、正品歩留まり84.5%と全量1等米となり6年連続の豊作となりました。

また、本年から、水張面積を守るため加工米への取り組みを行いました。10月5日に TPP 交渉大筋合意を巡り、新たにコメの輸入枠を設定することを受け、うるち米販売価格の更なる下落も予想され、大変不安な思いをしているところです。

会員皆様安心してもち米の生産ができるよう、実需者との意見交換、きたみらい産もち米の販売推進を図りつつ、北海道産もち米の更なる消費拡大と安定的な需要確保に向け、役員・関係機関と取り組んで参ります。

幼穂形成期は7月3日と概ね平年並みに経過し、前歴期間・冷害危険期間に低温はあったものの、日照で花粉の充実度は良好でした。

出穂期は、平年より2日遅れ、生育が遅れ気味の圃場では8月上旬の低温・日照により開花にバラつきが見られたものの、稈長・穂長・穂数は平年並みに確保され、登熟調査では総粉数で96%とやや少ないものの、稈実歩合が高いことから高収量が期待できる状況となりました。その後、登熟期間の前半は良好に推移したものの、日照不足・低温により中期以降緩慢となったことから、成熟期は平年より13日遅れの9月23日となりました。

また、いもち病は8月3日初発確認されましたが、発生予防に基づき適切な防除により、ほぼ抑えることができました。

きたゆきもち	10%当収量	等級	正品歩留	色下歩留	網下歩留
平成27年産	618kg	1等	84.5%	11.5%	4.0%
平成26年産	612kg	1等	83.7%	11.0%	5.3%



本年、開花のバラつきから登熟にムラがあり、収穫は9月25日から始まり、10月15日で終了しましたが、収穫期間中は、10月2日の暴風による倒伏の発生、さらに同月8日の台風による圃場条件の悪化で、刈り取りが非常に難儀したため、昨年より延日数では1日長い受入となりました。

平成27年産の水稲は、管内作況指数111(前年115)の豊作となり、10%当たり618kg(昨年612kg)を確保できました。品質面では、生育ムラから青未熟粒割合が高く、さらに適期収穫・乾燥作業に努めたものの胴割粒は例年より高い発生割合(全道的傾向)でしたが、全量1等となりました。

特集 平成27年度 農畜産物を振り返って



2年続けての出来秋

きたみらいてん菜振興会 会長 原 智徳

昨年久しぶりの手応えある収量と糖分を手中にし、143%増反した3,845%（内直播4割超）で臨んだ本年産ですが、定植播種発芽後の風害や干ばつ、低温が続いた6月、一部地区の降雪と生育が鈍る気象が続いたものの、病害虫が小発生で済んだことやその後の適度な気象経過により予想収量56.9%に対し、概ね60%前後と昨年をも大きく上回る実績で進捗しており2年続けて良い出来秋を迎えることが出来そうです。

本年は道内どの糖区においても増反増収の傾向でしばらく耳にしなかった産糖量64万トンの超過が懸念されますが、肥培管理の努力を労いこの出来秋を素直に喜び合いたいと思います。一年間大変御苦労様でした。

てん菜の原料出荷は、10月降雨が続く収穫作業や操業に影響が出るかと思われましたが、10月18日より新しい設備も稼働して製糖が始まりました。この設備は従来より更に高度に不純物を除去して製品にするとこのことで販路拡大が期待されるところです。

しかし、新設備稼働に伴う諸事情等で操業を前倒し出来ず、多量の農家貯蔵の協力をお願いすることとなったうえ、予想収量も上回り輸送日程が計画より遅れ、御迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、地区の役員さん、貯蔵に協力取組んで戴いた生産者皆様にも大変感謝致します。ありがとうございました。

ここに来てTPPが大筋合意に至り、てん菜に関しては、我々に直接大きな影響は現状報じられてはいませんが、他の農産物との間接的な影響は不明です。

64万トンのも然り、生産拡大や地域経済に水を差されぬよう関係機関と連携して来年度に向け取り組んでいきたいと思っておりますのでご協力よろしくお願い致します。

てん菜 収量・糖分ともに高水準

4月に入り、融雪は順調に進み、移植・播種作業は概ね平年並みに始まり、期間中も天候は安定したこと、平年より1週間程度早く終了しました。その後、適度に降雨もあり、発芽生育ともに順調に経過していましたが、5月20日・24日の強風の発生により一部直播圃場では再播

干下回りましたが、正歩留りは76.1%（前年66.0%）と穂発芽が多発した前年を大きく上回る結果となりました。

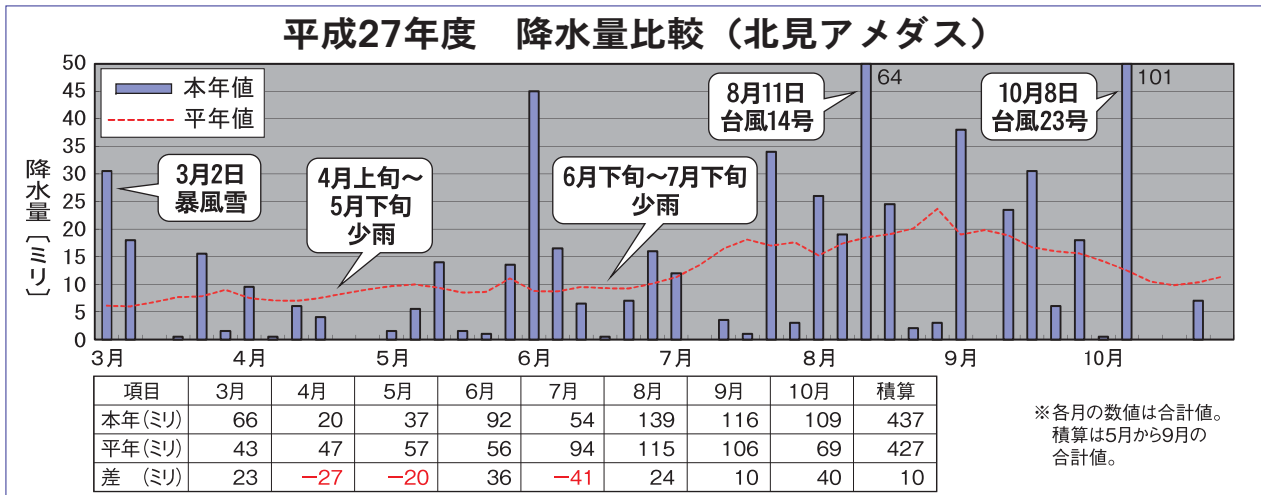
品質では早期倒伏圃場の細麦、及び収穫後半の降雨による穂発芽などが目立つことにより、1等Aランクで56.8%、2等Aランクで19.3%

%となりましたが、すべてにおいて容積重・タンパク・灰分・FN（フオリングナンバ）の基準値以内になりました。また、前年より懸念事項であったタンパクの低下は大幅に改善され、平均で13%（前年12.1%）となりました。

となる被害を受けました。その後は、大きな気象災害もなく、冷涼な気候で経過したこともあり、病害虫の発生は少なく、生育は順調に進み、褐斑病、根腐病、さらに発生拡大が懸念されていたテンサイ西部萎黄病の割合も平年に比べ少なく、収量・糖分とも豊作が期待できる作柄となりました。

10月8日の台風による圃場冠水から収穫作業への影響も心配されましたが、原料輸送は計画通り10月18日より始まり、当初57%の収量で輸送計画を見込んだものの、予想を上回る生産量と工場稼働計画未達により輸送期間は遅延しました。

	作付面積	収量	糖分	産糖量
平成27年度見込	3,844.72%	60.00%	17.5%	10.620%
平成26年度実績	3,702.17%	56.26%	17.7%	9.972%



努力が報われた年

きたみらい麦作振興会 会長 河合 正福

27年産を振り返ると、秋小麦に関しては26年の反省を生かし、徹底した冬枯れ防除を実施した結果、融雪後は青々とした圃場が多く見られました。5月の天候も干ばつ傾向でありましたが、比較的好天だったことにより生育は進み、6月が例年より低温で推移したものの、乳熟期が例年より早く経過するなど、小麦の生育には好条件となりました。刈り取りが始まるまで比較的涼しい気候で進んだことからゆっくりと登熟した結果、実の充実が図られ「きたはなみ」に移行後、初めて正歩収量が10俵を超える結果となり、努力が報われた年となりました。

春小麦は播種作業も順調に進み、秋小麦同様に天候にも恵まれましたが、収量は昨年を若干下回る結果となりました。また、本年も収穫期の降雨に悩まされた年となり、穂発芽など予想以上の品質低下を招いてしまい、非常に残念な年となってしまいました。そのようななかで、大麦に関しては例年以上の収量があり、品質も良い状態で収穫できたことは、関係各位の努力の賜物と非常に喜ばしく思います。

本年は「きたはなみ」本来の能力を久しぶりに体感できたことが、来年の作付け意欲にもつながると信じ、今年以上の品質と収量を目指して、会員皆様と頑張っていきたいと思っております。

秋まき小麦 前年を上回る

融雪は平年並みに進みましたが起生期は平年より1日遅れとなりました。しかし、4月下旬からの好天により、幼穂形成期・止葉期は5日程進みました。

6月は日照・低温となり生育が緩慢となりましたが、5月下旬の好天

播種作業は平年並みに進み、越冬前歩数は平年よりやや多い傾向でした。

本年産の収量は、規格外込みで10俵当たり収量は平均668kgと前年(531kg)を上回りましたが、正歩留まりは1等比率で91.0%（前年92.5%）となり、前年を下回る結果となりました。

品質面では、登熟ムラによる青未

麦類 正歩収量 前年を上回る

で出穂期が7日程進んでいたため、乳熟期で2日程早まる結果となりました。その後7月上旬が冷涼に推移したため、登熟を緩やかに経過することができ、登熟期間で52日間（平年45日間）と長くなりました。

収穫は前年より1日遅い7月27日から始まり、8月7日で終了しました。

春まき小麦

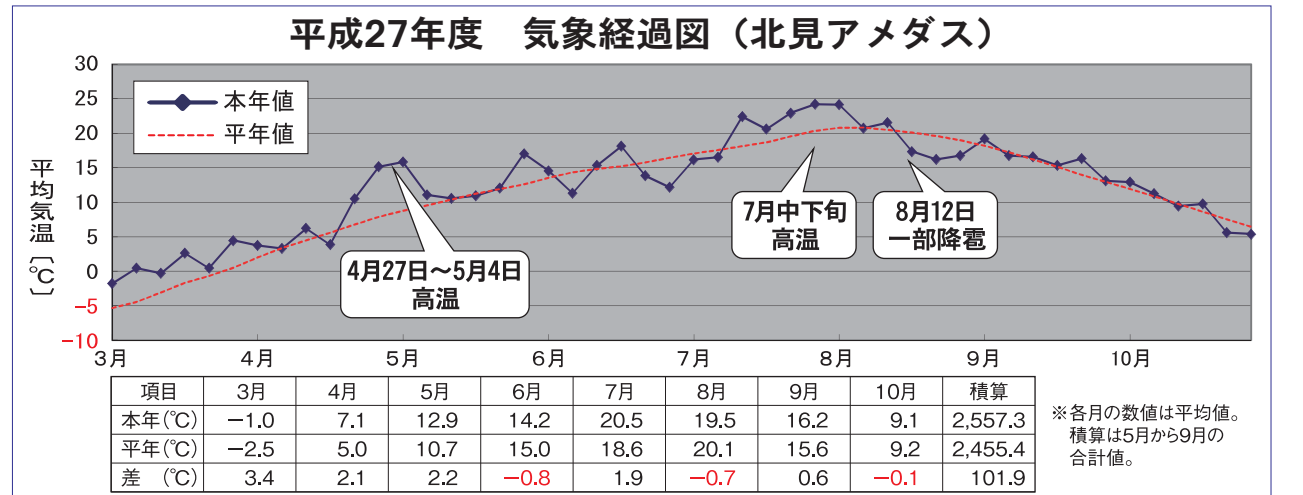
播種作業は平年並みに進んだものの、播種後の好天で出芽も良好でした。6月は日照・低温となり生育が緩慢となりましたが、5月下旬の好天で出穂期が2日程進んでいたため、成熟期は遅れることなく平年並みとなり、登熟期間は44日間と平年(43日間)並みとなりました。

また、目立つ病害虫の発生は少なかったものの、収穫期間後半の降雨により一部で穂発芽による品質低下が見られました。

収穫は前年より1日早い8月8日から始まり、8月17日で終了しました。

本年度の収量は、規格外込みで459kg（前年465kg）と前年を若

熱粒割合の高い原料も見られましたが、すべてにおいて容積重・タンパク・灰分・FN（フオリングナンバ）の基準値以内となり全量1等Aランクとなりました。



特集 平成27年産 農畜産物を振り返って



消費地から高い信頼をいただく

きたみらい玉葱振興会
会長 小野 洋一

本年産は、振興会員皆様の努力のもと、早期から出荷することが出来ました。府県産の病害大発生によって不作となり、夏場の玉葱供給責任を果たす産地が無く、加えて思惑を含めた相場展開となったことで、消費地において適正価格を上回り、投機的な一面が見られたことから価格抑制が行われました。このことは、国内玉葱の消費減退や道産出荷時期の売場面積の維持拡大に影響を及ぼすことから、消費地よりM比率が高くて早期出荷を期待されました。定植後は決まっていた天候でないなか、振興会員の早期出荷の理解と生産技術によって、昨年より3日早い8月6日選果、8月7日に出荷が出来ました。その結果、消費地に対し「きたみらいここにあり」と言われる高い信頼をいただき、会員皆様に改めて心から敬意を表すところであります。今後、道産玉葱の生産量を考える時、売場面積や販売期間の拡大は必須であり、需給調整対策である8月出荷、年明け5月出荷、全道共計と言われる加工向け出荷による価格形成機能を果たす役割が重要であります。また、6月に長ねぎから発見されたネギハモグリバエは、空知や上川地域での被害状況を耳にした時、生産現場に不安を与えるもので早期からの対策を打ち出しました。会員皆様の理解を頂いたことでその後の大きな被害もなく、収穫を迎える事が出来ました。次年度以降においても重要害虫として早期発見・早期撲滅が重要であり、関係機関との連携を密に対応していく必要があります。TPPやシロシストセンチュウの発見は、玉葱生産者にとって直接的ではないにしろ大きな環境変化が予測され、今後の共計共販体制、諸対策を再認識し生産者、生産組織の結束を固め、原点に立ち返り全身全霊を傾けた玉葱栽培に努めていく必要があります。

本年は、8月上旬より北海道産（極早生種）の販売が開始されました。平年作であった兵庫産（淡路）は、北海道産作況を踏まえ前倒し出荷が進められ、不作であった佐賀産も期間を通して少ない出荷が続いたことから、益前より北海道産への切り替えが進み一般野菜不足もあり堅調な価格でのスタートとなりました。9月は、一斉に各道内産地が出揃い9月大型連休を境に市場在庫は増加し、安価な転送品の回りのもあり販売ムードは悪化し価格は順次下

しとなりました。10月以降は各産地の取扱量増加や倉庫事情の兼ね合いから、需要を上回る出荷量となっております。量販店では、道産作況を踏まえ早期から拡販に向けた売価設定や売場確保を続けていますが、継続的に実施してきたフェアも一巡・二巡し、特売企画は継続的に組まれています。家庭での常備も潤沢になっています。同時に野菜全体も温暖な気候から出荷量も増加し価格低迷となり、更には11月下旬でも20℃を超える陽気もあり消費が純化する状況であり、

販売環境の悪化を招いている一因です。

◆11月15日現在改装状況 選果基数（一般）77,445基（前年同期67,022基）

	2L	L大	L	M	小計	長玉	加工	S	屑	合計
27年産	14.0%	45.8%	26.9%	5.0%	91.7%	0.0%	5.1%	0.6%	2.6%	100.0%
26年産	9.5%	38.1%	34.8%	10.8%	93.2%	0.1%	3.7%	1.6%	1.4%	100.0%

◆11月15日現在 北見地区共計単価1,754.09円（前年同期1,906.49円）

◆作付生産概要（11月10日現在）

		作付面積 (ha)	10a収量 (kg)	生産量 (t)	商品化量 (t)
H 27	全道	12,674	5,870	743,450	702,870
	（きたみらい）	4,577	6,158	281,840	272,300
H 26	全道	12,340	5,140	634,310	595,780

◆系統販売計画（11月10日現在）

	合計	生食			加工向け (JA扱含む)	年産合計
		年内計画	年内進捗	年明計画		
27年産計画	404,140	257,140	63.6%	147,000	192,570	596,710
26年産実績	379,950	244,940	64.4%	135,010	122,910	502,860
25年産実績	312,720	200,570	64.1%	112,150	98,160	410,880

そのほか全道対策としては、月別出荷計画推進・生食の2L規格積比率規制・量販店販促活動（メーカーコラボによる販促）、加工向け（既存ユーザー販売拡大・新規ユーザー供給（輸入品から切り替え）・輸出（台湾・韓国・消費地保管などの対策）を行い、価格浮揚に向けて取り組んでいます。加工業務関係は、あらゆる調達ルートから原料手配が可能な状況となっているため、北海道産を使用する

ユーザーは増加しています。一方で、輸入量は抑制されているものの、国内のむき処理能力に限界があるため、中国産むき玉はコンスタントに輸入されている状況です。27年産は、近年にない取扱量となっていることから、販路拡大はもとよりの消費地の動向をよく観察し、需給バランスの均衡をはかる販売が必要となることから、全道諸対策を取り進め価格浮揚に向けた取組みを行っています。

豆類 多雨の影響 生育遅れる

豆類の播種期は概ね平年並みで、出芽期は高温で経過したことから平年よりやや早まりました。高級菜豆では一部圃場で多雨の影響により出芽にバラつきが見られました。出芽後は7月中旬まで低温傾向で経過したことから、開花期は平年よりやや遅れました。8月中旬以降は気温が平年並みく



収穫まで苦労した年産

きたみらい豆類振興会
会長 茂住 修二

本年を振り返ってみますと、春先の融雪も順調に進み、例年にない好条件のなかで、播種作業が行われ、発芽揃いも良好だったことから良いスタートが出来たと思います。その後、生育ステージの遅延もありましたが、7月～8月中旬にかけて比較的天候に恵まれたことにより生育が回復し、収穫に向かって期待していたところでしたが、8月下旬から低温多雨の影響で生育が7～10日程度遅延した結果、平年ではお積時期である10月上旬に立毛状態であったことから風害の影響により、倒伏被害が発生し品質低下を招くこととなり、収穫まで大変苦労した年産となりました。

昨年に引続き、本年度も高級菜豆の面積増反・維持対策のおかげで、面積を微減で食い止められているところですが、本年の風害で女竹の損害も大きく、来年度の作付け減少が危惧されます。「きたみらい豆類振興会」としては面積維持はもちろんのこと、新規耕作者を少しでも増やしていきながら、輪作体系を確立する上で豆類は重要な品目であることを踏まえ、異常気象に負けない強い農業を目指して頑張っていきたいと思

れました。作業全般が7日～10日程度遅れているなかで、10月上旬に2回の風害が発生し、高級菜豆圃場全般において倒伏被害が発生し、女竹などの生産資材に多大な損害を与えました。品質については、豆類全般として平年より大幅に遅れたことから、小豆は未成熟莢の霜害粒及び、未成熟粒の混入による色ムラが著しい年産となりました。大豆は病害虫による被害粒が少なく、好条件で収穫できたため汚粒も少なかったことから、粒揃いも良好で品質・収量共に良い年産となりました。

玉葱 近年にない豊作

全道面積では加工指標増加もあり1,2,674ha、きたみらい面積は、4,577haとなりました。本年は融雪が順調に進み、植付開始は平年並みの4月20日頃から始まり、その後も降雨がなかったことから作業が順調に進み、植付終了は平年より9日早く終了しました。植付後は干ばつ傾向でしたが、6月以降は一変して降水量が多く、その後も引き続き適度な降水量があったことから、7月1日では平年並みの生育となりました。7月以降も適



度な降水量があり生育進度は平年並みでしたが、莖長が平年を上回り、地域差が少ない生育状況となりました。このようななかで11月10日現在の収量は、主産地の岩見沢・旭川地区は平年を上回り、網走管内が平年作を大きく上回る6,220kg/10aとなったことから、全道平均は5,870kg/10aと過去5カ年平均を1,070kg/10a上回り、当JAでは6,160kg/10aと近年にない収量となりました。品質は収穫時期の好天もあり、汚れや黒シミは少ない状況で総じて良好に推移しています。しかし、大玉であることから特に外品（ムケ玉）発生が平年より多い状況となってい

特集 平成27年度 農畜産物を振り返って



更なる連携をめざして

きたみらい酪農振興協議会 会長 伊藤 稔

本年度、春先の播き付け作業は順調に進みましたが、6月中旬より天候不順となり、収穫作業の遅延により品質は落ち込みました。

夏場も高温にならなかつたこともあり、テントコーンは例年より一週間ほど遅れて始まり、不順な天気の中で大変苦勞の多い収穫作業でした。

特に、10月は二度に渡る暴風雨で倒伏に見舞われた方には心よりお見舞い申し上げます。

生乳生産では、目標達成に向けた増産対策を積極的に活用していただくよう周知のもと前年実績101%と二年ぶりに前年を上回っております。また、4月に乳価の値上げもあり、初生トクを含む、個体販売も高値で推移している状況からようやく明るさが見え始めた折り、TPP交渉大筋合意が発表されました。大筋合意の概要を見ますと酪農経営には非常に厳しい内容となっており、今後二年以降を見据えた対応をJAと連携をとりながら執り進めていかなければなりませんので、会員皆様のご協力を切にお願いいたします。



改良推進と生産拡大を図る

きたみらい 黒毛和牛振興会 会長 島尻 勝

本年を振り返りますと、春の植え付けから収穫期まで比較的好天に恵まれ、農作業は順調に進み、前年産より各作物ともに収穫量が多い年となりました。

和牛の情勢は、全国的に繁殖農家数の減少により素牛は昨年に引き続き高値で取り引きされています。しかし、肥育農家は肥育牛の出回り頭数の減少による素牛価格の上昇や配合飼料価格の高騰など、生産費が上昇傾向であり、この状況がいつまで続くのか心配であります。

また、大筋合意に至ったTPP交渉においては、牛肉関税の完全撤廃は免れたものの最終関税率が9%と、将来への不安は拭えない状況であります。

振興会としましては、引き続き当地域における和牛の改良推進と高能力牛の生産により、市場評価の高い黒毛和種の生産拡大を図って参ります。

来年度も繁殖農家、肥育農家の皆さんが健康で笑顔が多い年であることをご祈念申し上げます。

平成27年度の生乳生産目標数量は第8期生乳安定生産対策に基づき、前年度の実績数量に対して103%乗じた数量で設定されました。生乳のプル乳価は4月の決定を受けて、1kg当たり前年比約3円60銭の値上げとなり、乳価の値上げは5年連続となりました。

生乳 生乳増産対策 事業を実施

全国的な生乳生産量は前年累計比で101.6%となり、4カ月連続で前年を上回っている状況です。飼養戸数は北海道で年2%近く、都府県で5%前後の割合で減少しており、深刻な状態が続いています。

飼養頭数においても全国は減少している一方で北海道は戸当たりの頭数は年々増加傾向にあります。当地区の一番草収量は高温、少雨の影響で一番草の収量は平年対比93%、二番草は96%の状況でした。デントコーンの乾物収量は平年を上回る112%でした。

乳用牛 相場は高値で推移

初妊牛は生乳生産回復に向け、都府県需要が継続して高く、相場は高値で推移しています。道内外ともに引き合いがあり、年明け以降の取引も強含みの傾向が予想されると思われます。

肉用牛 高値で推移

出荷牛の販売が順調なこと、初生・素牛の出回り頭数が少なかつたこともあり、導入牛も高値で推移しています。

枝肉相場も年末需要の高まりから、年内は右肩上がり相場が続くと考えられます。

◇生乳生産実績

区分	目標数量(ト)	26年度実績比	27年4~10月数量(ト)	進捗率
全道	3,842,188.4	103.0%	2,229,415.0	58.0%
管内	577,087.6	103.3%	330,649.3	57.2%
きたみらい	92,282.2	103.1%	52,946.2	57.3%

◇衛生的乳質実績(27年4~10月)

項目	全道	管内	きたみらい
生菌数(1.4万以下)	98.7 0.0	98.3 -0.1	98.0 -0.8
体細胞数(30万以下)	98.5 0.0	97.4 -0.2	95.6 -1.1

◇共計男しゃく選果改装状況(一般共計11/15現在)
○改装基数 9,936基 選果進捗52%(前年同期55%)

年産	3L	2L	L	LM	M	S	小計	B品	空洞	屑	合計
H27	0.9%	6.7%	28.6%	16.6%	25.1%	6.9%	84.8%	11.0%	1.1%	3.1%	100%
H26	1.6%	7.8%	26.2%	14.7%	22.4%	5.9%	78.6%	17.0%	0.7%	3.7%	100%
H15~26平均	1.3%	7.2%	28.4%	14.9%	21.9%	5.9%	79.6%	17.0%	1.1%	2.2%	100%

○北見地区共計販売単価(11/15現)948.65円/10kg(前年同期896.99円)



近年にない収量 歩留り、品質とも安定

きたみらい馬鈴薯振興会 会長 平川 千春

本年は、前進栽培を皮切り順調なかで播種作業が終了しました。その後一時干ばつの懸念はありましたが、生育も安定したなかで推移し、収穫時期に若干の苦勞はしたものの生食・加工とも近年にない収量となり、歩留り品質とも比較的安定した年産であったかと思えます。

全道主要産地を見ても豊作傾向にあることから販売環境は本年も厳しい状況になることが懸念されるのですが、振興会としてもJAと連携し販売推進をしっかりと行うとともに市場・量販に対しても産地の現状を強く訴えていかなければならないと改めて強く感じているところであります。

一方、8月にはオホーツク管内においてシロシストセンチュウ発見のショッキングな報道があり様々な不安や憶測が飛びかかったわけですが、当振興会では今まで通り土壌検診、植物検診を行い関係機関と連携を取り迅速な情報も報告しながら蔓延防止に努めてまいりたいと考えております。

近年、馬鈴しょを取り巻く環境は、生産・販売においても大変厳しい状況下にあるわけですが、どうしても「我々生産者の意欲が上がるか」、「求められる産地とは何か」を今一度検証しながら今後に向かっていかなければと考えているところであります。今後とも会員皆様のご理解・ご協力をお願いするとともに次年度も更り多い年になることをご祈念いたします。

本年産の播種作業は、近年にない積雪が多く融雪遅れが懸念されましたが、3月中旬以降融雪が進んだことから4月20日頃より本格的にスタートし、その後、好天に恵まれ近年になく順調に作業が進み、平年より7~10日程度早い終了となり年産の好スタートを切りました。

植付以降は、干ばつ傾向で推移したものの、適度な降雨もあり生育は順調に推移し、1週間程度早い生育で推移しました。しかしながら、6月下旬以降の干ばつ推移により、生育が抑制され塊茎肥大は緩慢に推移した状況下になりましたが、前半の順調な生育が貯金となり、干ばつの影響は最小限にとどまりました。

馬鈴しょ 全道的に豊作

道内の本年産馬鈴しょの作付面積は27,526haとなり、前年に対し39.8%減少、依然男しゃく、メークを中心に減少が続いています。収量面では、全道平均で10kg当り収量3,410kg(前年比103%)となり、主要産地では北見地区が3,520kg(前年比101%)、十勝地区が3,500kg(前年比92%)、倶知安地区は、3,480kg(前年比115%)の反収となっており、全

◇全道生産状況(男しゃく)

	品種	作付面積(ha)	反収(kg/10a)	生産量(ト)	商品化量(ト)
H27	全道	7,746	3,410	264,100	207,480
	倶知安	2,365	3,480	82,260	58,970
	帯広	1,839	3,500	64,470	50,050
	北見	1,986	3,520	69,840	60,440
	きたみらい	1,303	3,542	46,158	38,488
H26	全道	8,058	3,320	267,620	209,610
	倶知安	2,383	3,030	72,100	53,280
	帯広	1,944	3,810	74,000	56,540
	北見	2,088	3,480	72,730	61,280
	きたみらい	1,425	3,480	49,569	40,435

道的に豊作基調となりました。販売環境は、九州産が天候不順推移の影響による不作状況に加えて、後続の静岡産についても平年を下回る出荷量であったことから、7月中旬まで近年にない高値市況で推移しました。7月中旬以降、北海道産の本格出荷に伴い北海道産への切り替えが進み、府県産残量の不安定な出荷や、猛暑による消費意欲の減退、高い店頭価格も加わり市況は急激に下押しに転じました。

8月下旬以降は、新じゃが販売促進展開や量販店での北海道フェア等の早期開催、一般野菜の高値基調も加わり、馬鈴しょの売場は拡大し、消費は確実に広がりましたが、北海道産の出荷量が増加するなかで市場内在庫は増加し、市況は弱含みで推移しました。

じゃがいも問題研究所 所長キャラクター「いもろう所長」
【ホームページアドレス: www.Jagaimondai.jp】

販売環境が続いております。今後に向けては、全道馬鈴しょ生産量に応じた安定出荷対策、販売環境に合わせた出荷対策等、メリハリをつけた出荷対応を図り、系統一丸となって販売対策に取り組み、価格浮揚を目指して参ります。

本年の道路清掃事業として11月7日、市職員の協力を得ながら、西地域JA理事、青年部・女性部・フレッシュミズの各部会員、JA職員の総勢47人が8班に分かれ、北見市内のJA米麦センターから市道沿い約6*の路肩のゴミ拾いを行い、総重量80*を回収しました。



▲道路清掃を行う林監事(左)と牧野理事(右)

同活動は「農業振興方策」の重点項目の一つ「環境に優しい農業展開」の活動の一環で、きたみらい管内3つの地域を毎年順番に回りながら実施しており、今年で7回目となりました。

ゴミ収集にあたって川岸一三西地域運営委員長は「みなさんの協力があった、地域の景観が維持できる。今後も地域社会の発展に貢献していきたい」と活動のさらなる充実に期待を込めました。(丸山 恵理)

西地域 相内 **道路清掃で地域に貢献**
~市道沿いに80*を回収~



▲巧みな操縦で宙を舞う無人ヘリコプター

端野地区では11月12日より、無人ヘリコプターによる秋まき小麦の雪腐病を防除する農薬散布が行われました。初日は忠志、川向、緋牛内の圃場で作業が行われ、ヘリコプター3機が巧みな操縦により宙を舞い、圃場全体に農薬を散布していきました。

委託業者による無人ヘリでの農薬散布は平成12年より開始。無人ヘリを操縦するためには特定のオペレーター技能講習を受け、免許の取得が必要になります。

今年のヘリ防除の申し込みは、62戸となり、268%の圃場で行われました。散布期間中は強風、雨天の影響もありましたが、16日までの4日間で終了しました。(高田 陽介)

東地域 端野 **無人ヘリで農薬を散布**
~62戸268%で実施~



地 域 だ よ り



青年部西支部(福田政行支部長)とフレッシュミズ温根湯支部(大原美雪支部長)、フレッシュミズ留辺蘂支部(橘美咲支部長)、フレッシュミズ相内支部(水野美香支部長)は11月20日、ボウリング大会を開催しました。

西地域 温根湯&留辺蘂 & 相内 **フレミズ・青年部 交流会開催**
~ボウリングで交流して仲良く焼肉~

当日は青年部、フレミズ合わせて31人が集まり4人のチームに分かれ得点を競い合いました。

なかなかプライベートで行くことが少ないボウリングなので珍プレーの続出。会場内には楽しそうな声が響いていました。

終了後には表彰式と懇親会を市内の焼肉屋で行い、競技に参加出来なかった部員も含め、焼肉を食べながら和やかに懇親会を行いました。(梅澤 大)



▲ボウリングを行う参加者のみなさん

南地域 置戸&訓子府 **一投一投に歓声**
~女性部合同研修会 開催~

女性部置戸支部(嘉藤常子支部長)と訓子府支部(中山町子支部長)は11月19日、河西建設カーリングホールにて合同研修会を開催しました。

置戸支部からは部員9人、訓子府支部からは役員10人が参加し、支部混合4チームで基礎練習と簡単なゲームを行いました。はじめは氷の上を歩くのもやっとの状態でしたが、講師の北見カーリング協会の皆さんによる指導のお陰でみるみる上達し、最後には円の中心にぴたりと止めるミラクルショットも見受けられました。

体を動かしたあとは、会場を移し、昼食をとりながら、互いに今年の作業の報告をするなど、さらに支部間の交流を深めました。(石井 睦美)



▲初体験のカーリングを楽しむ部員のみなさん

きたみらいの
ホープさん



●趣味は？

フットサル、水泳

●理想の女性像は？

話を聞いて楽しい人

●農業をやっていて思ったことは？

苦勞が多いですが、その分喜びも多く感じられます。

●今後の抱負は？

安定した農業経営をしたいです。

(神田 貴章)

将之さんは玉葱を作付けする昆野範雄さんの長男で就農して4年目になります。

**安定した農業経営
を目指す！**

訓子府地区・大谷

昆野 ^{まさゆき}
将之さん(28歳)

Pretty Woman
ウーマン



**幅が広がるのが
楽しみ！**

温根湯地区・昭栄
大原 ^{みゆき}
美雪さん(37歳)

今回はフレミズ温根湯支部支部長の大原さんに登場いただきました。

◆ご出身、旦那さんとの出会いは？

出身は富良野町で、結婚前は旭川医大で調理師をしていました。

主人とは専門学校が一緒に知り合い、10年の交際期間を経て結婚しました。

◆お子さんは？どんなご家庭ですか？

子どもは7歳の長男、5歳の長女、2歳の次女の3兄妹で、つけているテレビの音が全然聞こえないくらい賑やかな家庭です。ここでは駄目と注意してもなぜかテレビの前で遊ぶ子どもたちと闘う毎日です(笑)

◆好きなことは何ですか？

子どもが出来てからは機会が減ってしまいましたが、昔から体を動かすことが好きです。学生時代はカヌーをしていました。また落ち着いたら何か運動したいと思っています。

◆組織活動で楽しいことは？

組織活動は1人ではできない研修や体験がいろいろできるのが楽しいです。

来年からは支部が再編し人数が増えるので、ますます活動の幅が広がるのが楽しみです！

(丸山 恵理)

わが家のアイドル



上常呂地区・常川
木村 ^{あかり}
朱里ちゃん
(1歳11カ月)

誰にでも思いやれる優しい子に

玄関のチャイムを鳴らすと、お父さんと一緒に出迎えてくれた朱里ちゃん。アンパンマンが大好きで、お気に入りのぬいぐるみを見せてくれました。

北光幼稚園にはプレ保育で通っています。元気いっぴいの朱里ちゃんはおもちゃの取り合いをしてお友達を泣かせちゃったこともあったとか。それでも泣いている子をみかけたらティッシュで涙や鼻水を拭きとり、ごみ箱に捨ててあげる優しさもあって、みんなの人気者です。

踊るのが得意な朱里ちゃん。NHKの教育番組「みいつけた！」を見ながら踊るそうで、「イスの応援団」のお歌がお気に入りです。幼稚園のお遊戯でも先生の振付を完璧にマスターしました。

祖父母の一夫さん、芳江さんにも面倒を見てもらうこともあり、お家にあるアンパンマンの滑り台や、ジャングルジムで遊ぶのを見守ります。もうすぐクリスマスとお誕生日を迎え、楽しみが待っている木村家。お父さんとお母さんは「健康で、誰にでも思いやれる優しい子になって欲しい」と話してくれました。(高田 陽介)

木村憲幸さん千鶴さん夫妻のお子さんです。

Qお付き合いをしたきっかけは？

訓青協での交流がきっかけでお付き合いを始めました。

Q休日の過ごし方は？

休日は別々に動きますが、買い物と一緒に出掛けます。

Q趣味は？

忠浩さん～散歩に出かけます。

博子さん～昔はバレーボールをしていましたが、今は友達と出掛けるのが趣味です。

Qこれからしたいことは？

忠浩さん～60歳を過ぎたら家族で旅行に行きたいです。

博子さん～飲み会メンバーで温泉に行きたいです。

Qお互いへの感謝の言葉

忠浩さん～いろいろと迷惑をかけてすみません、これからもよろしく願います。

博子さん～いつも料理をおいしく食べてくれてありがとうございます。

(神田 貴章)



ながよし夫婦

買い物は一緒にお出掛け

訓子府地区・北栄

小沢 ^{ただ} ^{ひろ}
忠浩さん(54歳)
^{ひろ} ^こ
博子さん(54歳)

1分間CMで優秀賞 オホーツクJA青年部研修大会

オホーツクJA青年部協議会は11月19日、温根湯温泉ホテル大江本家で第45回オホーツクJA青年部研修大会を行いました。

「俺達の未来」を大会テーマに掲げ14単組から約130人が参加。オホーツクJA青年の主張発表大会、基調講演のほか、今年から各グループに分かれての討議が行われ、これからの青年部活動について意見交換、発表をしました。

動画をコンテスト「農業農村の魅力を発信しよう！」では1分間の動画CMを14単組がそれぞれ作製。当JA青年部はみごと優秀賞に選ばれ、JA青年部全道大会にて上映されることになりました。

また、懇親会ではアームレスリング大会、純農Boyオーディションも行いました。
(神田 貴章)



▲JA青年組織綱領を朗唱する青年部役員のみなさん



▲青年部活動についてグループ発表を行う参加者のみなさん

センター事務所で 初めての収穫感謝祭

毎年、11月23日は出来秋を迎えたことを祈念して新穀感謝祭がきたみらい管内の各地域で執り行われていますが、同月25日、センター事務所でJA合併後、初めての開催となる収穫感謝祭が開かれました。

JA役員、生産者組織連絡協議会の構成団体と青年・女性組織の代表など50人が一堂に会し、事務所内に祭られた神前に参拝の後、きたみらい産のもち米で炊き上げた赤飯、地場の農産物・豚肉で作られた豚汁による昼食懇談会となりました。

長の開会挨拶の後、馬鈴薯振興会平川会長の牛乳で乾杯の音頭により昼食懇談が始まりました。各組織の代表が今年の営農を振り返っての感想を述べ、豆類が秋の暴風による手竹の倒伏・折損により被害に見舞われたものの、各作物、全体的には収量に恵まれた年となったことを語り合いました。

結びとして青年部坂下部長の手締め、坂下専務の挨拶により懇談会の終了となりました。豊稔の秋に加え、価格面でも生産者の努力が報われるものであって欲しいものです。



▲開会挨拶を述べる西川組合長



▲今年の営農を振り返り、感想を述べるもち米振興会 沼崎栄治会長

白熱の運動会！ JAきたみらいフレッシュミズ研修会

JAきたみらいフレッシュミズ(西島由華会長)は11月13日、訓子府町スポーツセンターにてミニ運動会を行いました。8支部の会員55人が6チームに分かれ、白熱の試合を繰り広げました。

西島会長は「8支部の会員のみなさんが街角で逢っても気軽に声をかけ合えるような仲間づくりのきっかけになればと願っています」と挨拶。本部役員の小林由紀子理事、長部舞理事が「農作業や家事のことは忘れ

女性らしく時には勇ましくプレーします」と選手宣誓しました。

参加者は玉入れや9人10脚など運動会らしい競技から、本部役員が考案した新競技など8種目に挑み、体育館には歓声や拍手が溢れました。

運動会終了後は訓子府地区事務所に移動し懇親会が行われ、お弁当を食べながら談笑したり、本部三役が考えたゲームに挑戦し、交流を深めました。
(丸山 恵理)



▲選手宣誓する小林理事(左)と長部理事(右)



▲息を合わせて9人10脚

地元食材の良さを再確認 地産地消・料理教室 開催

11月16日、北見市民会館にてオホーツク農業共済組合主催の「地産地消料理教室」が開催され、同組合職員3人とオホーツク管内の女性部・フレッシュミズの皆さん21人が参加しました。

このイベントは、地産地消をテーマに料理を作ること地元食材の良さを再確認し、普段接点の少ない女性組合員と同組合職員との親睦を深めることを目的に行われました。きたみらいからは女性部の齊藤のり子部長、黒須倫子副部長、フレミズの西島由華会長が参加しました。

講師を務めた「遊食厨房 いっこん家」の鈴木太郎店長は「料理を作りながら、皆さんと交流するのは初めてで楽しい。余った食材も冷凍できるなど、すぐに使えるワザをプロから教えてもらうことができた」と話していました。

この料理教室の様子はNOSAオホーツク発行の「広報オホーツク」新年号(12月中旬発行)で特集されますので、そちらもぜひご覧ください。
(石井 睦美)



▲齊藤部長(右)とカボチャグラタンをつくる参加者のみなさん



▲講師を務めた「遊食厨房 いっこん家」の鈴木太郎店長

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



11月号まちがい探しの当選者

10月号のまちがいさがしの答えは「1、3、7、10、12」でした。正解者62名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。

()内は地区名

- ・岡村 愛子さま (温根湯) ・中川 陽子さま (相内)
- ・中澤 寿恵さま (置戸) ・諸橋 陽子さま (訓子府)
- ・小山田 愛梨さま (訓子府) ・名和 優花さま (訓子府)
- ・田井 愛実さま (上常呂) ・戸田 富美子さま (北見)
- ・平川のぞみさま (端野) ・中野 英子さま (端野)

以上の方々には、JAきたみらい「玉葱と牛すじカレー」と「玉葱と鶏もも肉の黒カレー」をセットにしてプレゼントします。

応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、JAきたみらいの『玉葱醤油』と『オニオンコンソメ』をセットにしてプレゼント致します。

INFORMATION

第10回 理事会報告

11月26日、午前9時30分より第10回定例理事会が開催され、報告事項10件、議決事項6件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①組合員状況報告について
- ②財務状況報告及び決算見込について
- ③全国監査機構期中監査報告について
- ④反社会的勢力等の取引排除及び組織犯罪等の防止に係る対応状況について
- ⑤小規模土地改良及び農地災害復旧事業関連資金利子助成事業の取り進めについて
- ⑥農業経営継承支援の取り進めについて
- ⑦H27年産共計玉ねぎ・馬鈴しょの選果販売状況について
- ⑧2015長いも祭り収穫感謝祭実績について
- ⑨生乳生産状況及び個体取引価格について
- ⑩高級菜豆倒伏被害支援対策について

【議決事項】

- ①出資減口について
- ②固定資産の取得及び処分について
- ③年末手当の支給について
- ④役員報酬審議会委員の選任について
- ⑤組合員家族高齢者の相談窓口と専任相談員の設置について
- ⑥平成28農業年度事業推進方針について

秋の農業用廃プラ回収

JAきたみらいは11月10日から12日の3日間、北見市西相内の小麦乾燥調製貯蔵施設内で農業用廃プラスチックの回収を行いました。春と秋に回収を行っており、今回は約133トンを回収しました。

廃プラスチックの処理にあたっては、環境負荷の軽減、資源の有効活用などから、再生可能な資源としてできる限りリサイクルをすることが求められており、農業空容器などは洗浄したものを回収し、専門業者によって適正に処理されます。

集められた廃プラスチックは発電用燃料として12月上旬までに処理業者へ運搬されます。(高田陽介)



▲約133トンを集めた農業用廃プラスチックの回収作業

長いもまつり大盛況 収量・品質ともに良好

JAきたみらいは11月15日、きたみらい野菜振興会「長いも・ごぼう部会」(株)マルキタと協力し「長いもまつり&収穫感謝祭」を市内のマルキタ地方卸売市場で行いました。旬の長いもを求め、約2,200人の地元消費者が訪れ賑わいました。会場には早朝より市民の行列ができ、予定より10分早く開場。昨年よりも5ト多い約26トンの長いものほ



▲旬の長いもを買い求めるご来場者のみなさん

か、玉葱、馬鈴しょ、もち米、高級菜豆などの特産農産物やJAオリジナル商品が並びました。さらに(株)マルキタの協力により、マグロの解体実演販売や海産物、畜産加工品が販売されました。会場は入場制限を設けるほど賑わい、大盛況を見せました。

坂下専務は、「市民の皆さんには、きたみらいの美味しい野菜をたくさん食べて欲しい。今後もマルキタ市場と連携し、同まつりを盛り上げていきたい」と話しました。

また、「TPPI『調印・批准』は認められない」と書いたチラシが入ったティッシュを配布するなど啓発活動も行いました。(高田 陽介)



▲TPPIについてのティッシュを配った啓発活動

強 風で竹豆はきれいに倒され、仕事がしづらかったですが、きれいな豆で大助かりしました。寒い日は、ホットミルクにハチミツを入れて飲むと心も体もあたたまりますよ。

(温根湯地区 長谷川 和子さん)

竹豆を生産されている方々はとても苦労されたことと思います。なんとか作業を終えられたでしょうか。ホットミルクで疲れを癒してゆっくり休んでくださいね。

外 の仕事もやっと終わり、ハウスもかけました。どうぞ大雪など降らず、おだやかな冬であります様に。

(匿名希望)

おだやかな冬...その思いはみなさん一緒ですね。しっかり心と体を休ませることのできる冬になることを祈ります。

い つも楽しく読んでいます。それぞれの地区の事が知れて楽しいです。

(温根湯地区 羽馬義幸さん)

ご愛読いただき、ありがとうございます。広いきたみらい地域ですが、他の地区を少しでも近く感じてもらえるような広報誌になるよう、今後も工夫していきたいと思っております。

9 月のまちがいさがして義母が玉葱醤油をいただきました。まろやかでとてもおいしく、特に卵かけご飯には最高です。皆様もぜひ使ってみて下さい。

(上常呂地区 宮本みなみさん)

ご感想ありがとうございます(*^_^*)玉葱醤油と卵は相性ピッタリですね!多くのご家庭でご利用いただけているようで、嬉しい限りです。

タルト・オ・ポム

【エネルギー約270kcal(1人分)】



- 【材料：4人分】**
- | | |
|------------------|------------------|
| コンフィチュール | リンゴ ……………1個 |
| リンゴ ……………3個 | レモン汁 ……………大さじ2 |
| 塩 ……………小さじ1/4 | ブランデー ……………少々 |
| シナモンパウダー ……………少々 | カルヴァドス酒 ……………少々 |
| レモン汁 ……………小さじ1 | バター ……………少々 |
| | グラニュー糖 ……………小さじ1 |
| | 冷凍パイシート ……………1枚 |

【作り方】

- ①コンフィチュールを作る。リンゴは皮をむき1~2cmに切る。厚手の鍋に入れ塩を振り、混ぜ合わせ20分ほど置く。水分が出てきたらふたをし、弱火で煮る。10分ほどで水分が増えるのでかき混ぜ、しんなりしたらスプーンで粗くつぶし、シナモンを加えて火を止め、レモン汁を混ぜる。
- ②パイシートは5~10分室温で戻しラップ2枚で挟み、タルト型より一回り大きく延ばす。タルト型にバターを塗りパイシートを敷く。フォークで数箇所穴を開けて冷蔵庫で30分休ませる。
- ③上を覆うリンゴは半分に切り、スプーンで種と芯を除き皮をむく。2~3mm厚さに切りレモン汁と酒を振っておく。
- ④180~200度に予熱したオーブンで③にクッキングシートを敷き、スプーンなど重しを載せ、15~20分空焼きする。
- ⑤④に①を敷き詰め、その上に③のリンゴを並べ、数カ所にバターを置き、全体にグラニュー糖を振り掛ける。180~200度のオーブンで30~40分、焼き色をつける。型から外し、冷まして切り分ける。

メモ

旬のリンゴは少量の塩だけで甘さを引き出せます。このコンフィチュールの上に、フレッシュなリンゴを載せたリンゴ尽くしのタルト。コンフィチュールはたっぷり煮た方がおいしく仕上がるので今回は3個煮ています。残った方は冷蔵庫で保存してパンに塗ったり、ヨーグルトなどに添えてお召し上がりください。

おひさまサラダ COOKING

♡おいしいもの大好き!♡

根菜と豆入りのミネストローネ

【エネルギー約197kcal(1人分)】



- 【材料：4人分】**
- | | |
|----------------|-----------------|
| ニンニク ……………1片 | 白インゲン豆の ……200g |
| タマネギ ……………1/2個 | 水煮缶 |
| ゴボウ ……………50g | トマト水煮缶 ……1缶 |
| ニンジン ……………1/2本 | 水 ……………2・1/2カップ |
| ジャガイモ ……………2個 | 固形スープのもと ……1個 |
| セロリ ……………1本 | オリーブ油 ……大さじ1 |
| キャベツ ……………200g | 塩 ……………小さじ1 |

【作り方】

- ①ニンニクは粗みじん切り。タマネギ、ゴボウ、ニンジンは1~2cm角、ジャガイモ、セロリ、キャベツは3cmくらいに切る。
- ②鍋にオリーブ油とニンニクを入れ弱火で炒める。ゴボウを加え甘い香りになるまでゆっくり炒め、タマネギ、ニンジン、ジャガイモを加える。
- ③全体に火が通ったらセロリ、キャベツ、水、固形スープのもとを入れ15~20分、材料が柔らかくなったらトマト水煮缶と塩を加える。
- ④トマトの甘みが出てきたら豆の水煮を加え、5~6分煮てから塩味を調える。

メモ

ミネストローネとは具だくさんのスープという意味。体を温めてくれる根菜などの野菜がたっぷり入り、ボリューム満点で消化も良いスープ。ゴボウは甘い香りがしてくるまで、じっくりと炒めるのがコツです。水分が足りなければ途中で水を加えてください。

編集後記

- ・「おひさまサラダ」12月号をお届けいたします。今年も残すところあとわずか、冬将軍の到来を感じさせる季節を迎えました。
- ・この1年、本誌に登場いただいた方は延べ1,400人、クイズ・感想をお寄せいただいた方は延べ550人になりました。皆様の深いご理解とご協力の賜物とお礼申し上げます。
- ・さて、TPP交渉の大筋合意後、政府は攻めの農林水産業への転換を目指すとしたTPP関連政策大綱を決定しました。農業者の懸念と不安を払拭するとはしているものの農業経営に展望が持てる政策の構築を願うところです。
- ・来る新年がご家族皆様お揃いで、希望に満ちた1年となりますよう心よりご新年申し上げます。
(本多 勝彦)

JAきたみらい概要
 (平成27年11月18日現在)

- ・組合員数(正) 1,755人
- ・組合員数(准) 5,993人
- ・組合員戸数(正) 1,117戸
- ・貯金 105,081百万円
- ・貸出金 17,813百万円
- ・出資金 4,976百万円